

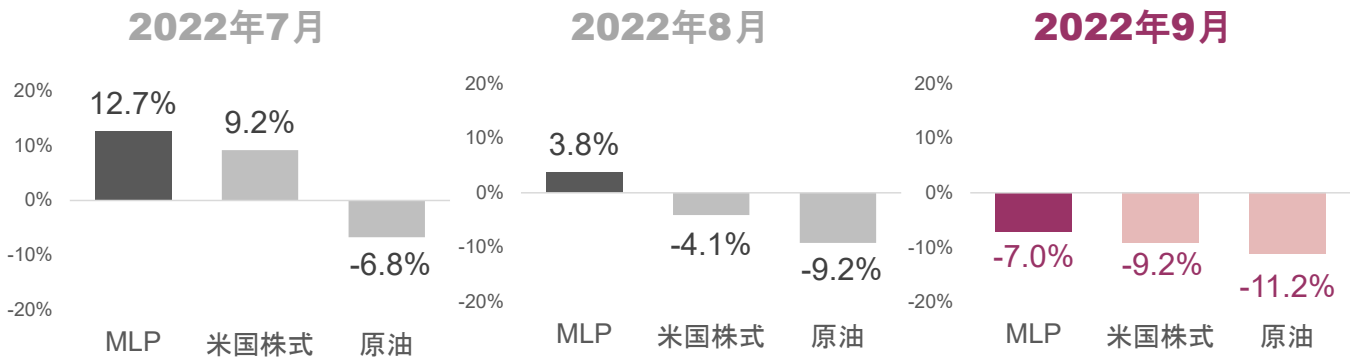
## 当月のS&amp;P MLP 指数の動き

9月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比 -7.0%と3か月ぶりの下落となりました。

主要国における政策金利の引き上げが世界経済減速につながり、原油需要が減少するとの見方などから、原油先物価格が大きく下落する中、MLPも下落する展開となりました。特に、中旬以降、米国に続き、英国やスイスなど他の先進国でも利上げが行なわれ、世界経済減速への警戒感が一段と強まったことなどから、原油先物、米国株式の価格下落とともに、MLPの価格が急落する場面がみられました。

## 過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)



## 主要指標の動き

MLP:S&amp;P MLP 指数、米国株式:S&amp;P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
<b>S&amp;P MLP 指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	5,496.89	5,913.76	5,055.89	4,495.14	-7.0%	8.7%	22.3%
プライスリターン	1,236.46	1,330.23	1,160.70	1,071.99	-7.0%	6.5%	15.3%
<b>S&amp;P 500種 指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	7,603.14	8,374.42	7,993.43	9,986.70	-9.2%	-4.9%	-23.9%
プライスリターン	3,585.62	3,955.00	3,785.38	4,766.18	-9.3%	-5.3%	-24.8%
<b>S&amp;P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,171.63	1,291.52	1,144.73	868.26	-9.3%	2.3%	34.9%
プライスリターン	552.56	611.80	546.24	422.74	-9.7%	1.2%	30.7%
<b>S&amp;P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,408.04	1,602.89	1,563.87	1,959.66	-12.2%	-10.0%	-28.1%
プライスリターン	298.12	341.71	334.31	425.81	-12.8%	-10.8%	-30.0%
<b>米国ハイイールド債 (ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))</b>							
トータルリターン	1,348.00	1,404.48	1,357.20	1,578.79	-4.0%	-0.7%	-14.6%
プライスリターン	62.77	65.77	64.22	76.94	-4.6%	-2.3%	-18.4%
<b>米国10年国債利回り</b>							
	3.83%	3.19%	3.01%	1.51%	0.64	0.82	2.32
<b>原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり</b>							
	79.49	89.55	105.76	75.21	-11.2%	-24.8%	5.7%
<b>天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり</b>							
	6.77	9.13	5.42	3.73	-25.9%	24.7%	81.4%
<b>米ドル (対円)</b>							
	144.74	138.96	135.72	115.08	4.2%	6.6%	25.8%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

## 当月の出来事いろいろ

- 5日、OPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラスは、10月の原油生産量を前月から日量10万バレル削減することを決め、2021年初めから続けてきた段階的な増産(協調減産の縮小)を打ち止めとした。米国は、5日はレーバーデーのため休場だった。
- 7日、米国での9月の利上げ幅が0.75ポイントになる見通しだと米経済紙が報じた。また、FRB(連邦準備制度理事会)の2人の副議長や複数の米地区連銀総裁から、金融引き締めに向き直る発言が相次いだ。利上げに伴う景気鈍化観測に加え、中国の貿易統計が冴えなかったこともあり、原油先物が急反落し、WTI原油先物が1バレル=81米ドル台となった。
- 21日、FRBは、3会合連続となる0.75ポイントの利上げをFOMC(連邦公開市場委員会)で決定し、政策金利を3.00~3.25%と、2008年1月以来の高い水準とした。また、パウエル議長は会見で、インフレ抑制に向けて手を緩めることはないとの見解を示した。
- 23日、英国政府が、エネルギー価格高騰対策として10月からの半年で約600億ポンドを投じることや、1972年以来の大規模減税として、2023年4月からの個人所得税率の引き下げなどに加え、同月に予定していた法人税率引き上げの撤回などを打ち出した。経済対策の費用は5年間で約1,610億ポンドに上るとされ、財政悪化懸念が強まった。原油価格が急落し、WTI原油先物が78米ドル台と1月以来の安値をつけた。また、米国株式市場が下落する中、MLPは急落した。
- FRBによる利上げに加え、労働需給が依然としてタイトであることなどを背景に今後も積極的な利上げが続くと観測が拡がり、米国の国債利回りが上昇する中、ドル・インデックスが下旬にかけて2002年以来の高水準での推移となった。

## 今後の注目点

- 10月から、2022年7-9月期の決算発表シーズンに入る。これに先立ち、MLP各社から発表される分配金の動向に市場の注目が集まる。

## MLPの利回り水準

9月は、欧米において、利上げが実施されたうえ、当局者から、今後も利上げに積極的なタカ派的な発言が相次いだことなどを背景に長期金利が上昇し、米国10年国債利回りは4%に迫る水準となりました。MLPの配当利回りと米国10年国債利回りの差は、9月末時点で、2003年以降の利回り格差の平均をやや下回っているものの、価格下落などもあり、MLPの利回りは魅力的な水準となっています。

＜S&P MLP指数と同利回りの推移＞  
2003年1月初～2022年9月末



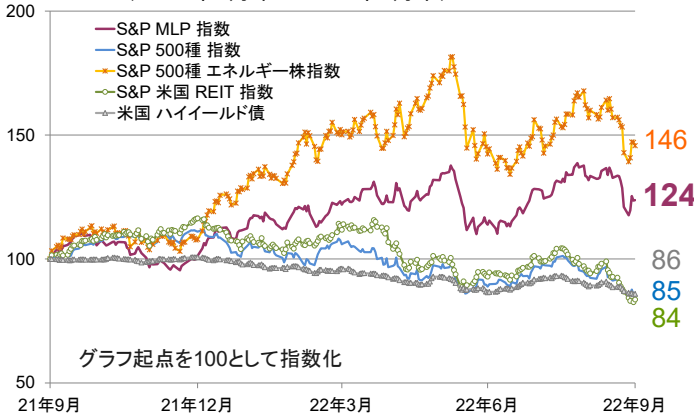
＜2022年9月末時点の各数値＞

①	S&P MLP 指数の配当利回り	7.96%
②	米国10年国債利回り	3.83%
③	利回り格差(①-②)	4.13 %ポイント
④	利回り格差の左記グラフ期間平均	4.31 %ポイント

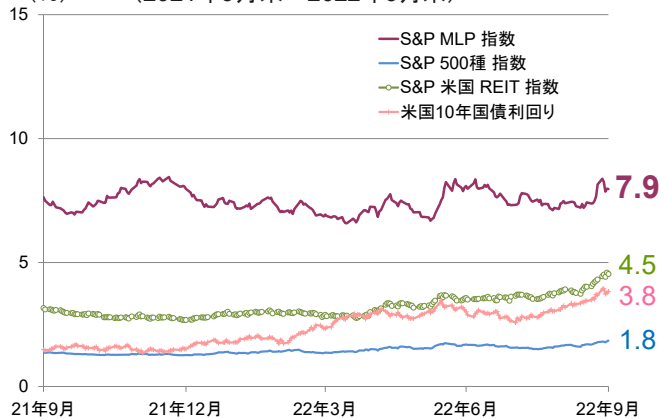
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)  
(2021年9月末～2022年9月末)



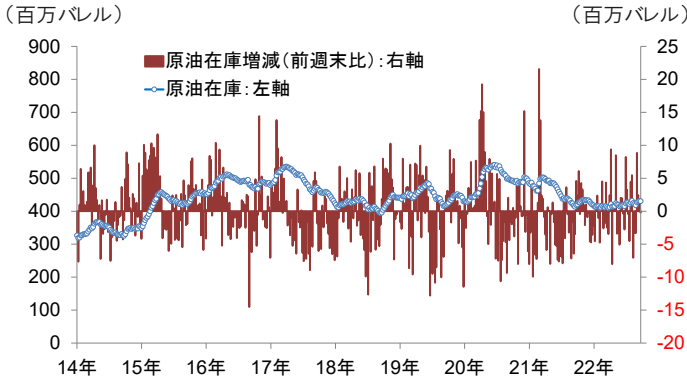
■過去1年の各資産の利回り  
(2021年9月末～2022年9月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。  
 ※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。  
 ※各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

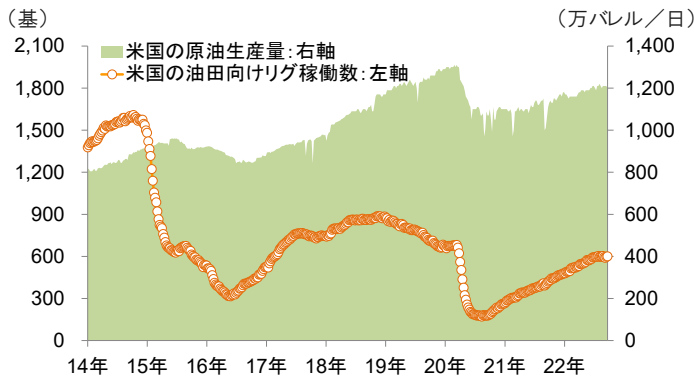
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2022年9月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

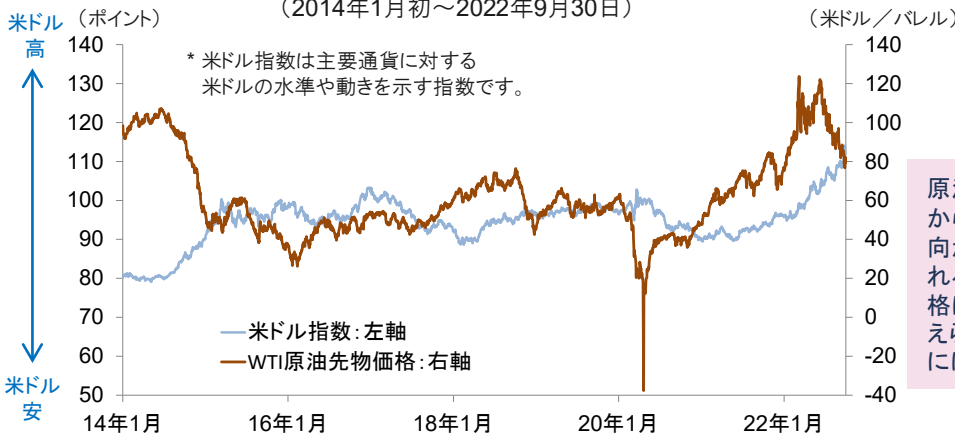
(2014年1月第1週末～2022年9月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数\*

(2014年1月初～2022年9月30日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)  
 ※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。